

定期作況報告

平成20年9月
(9月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最高気温、平均気温とも平年より極めて低く、最低気温は平年より低かった。降水量は平年並であった（平年比83%）。日照時間は平年より少なかった（平年比27%）。

9月上旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて高かった。降水量は平年より多かった（平年比196%）。日照時間は平年より多かった（平年比153%）。

9月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比4%）。日照時間は平年より多かった（平年比162%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は旬別の気象変動が大きかったが、1か月間をとおすと気温、降水量、日照時間も平年並であった。

注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

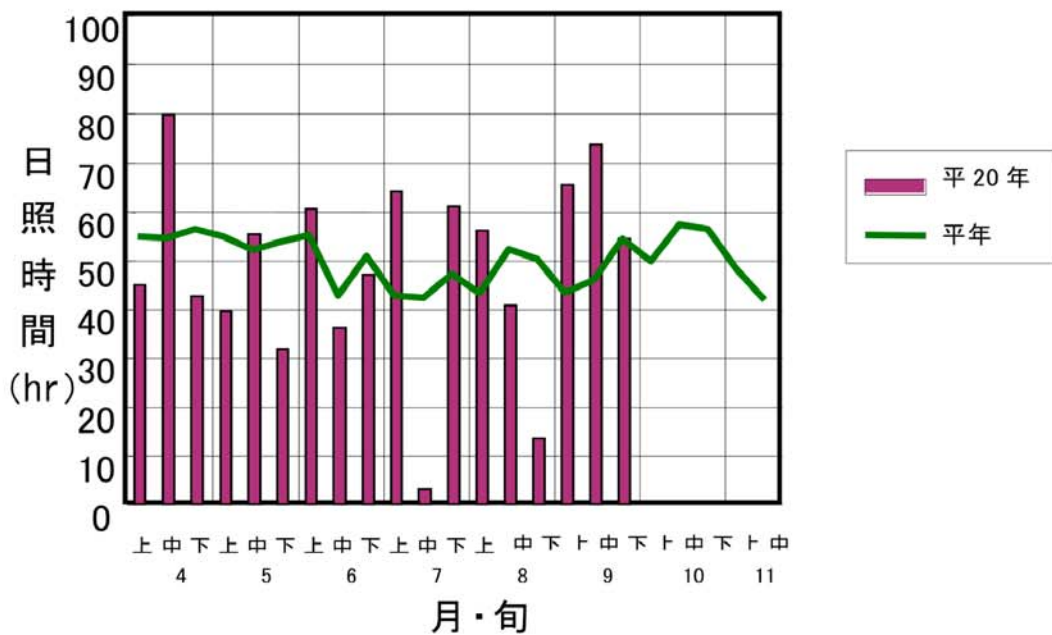
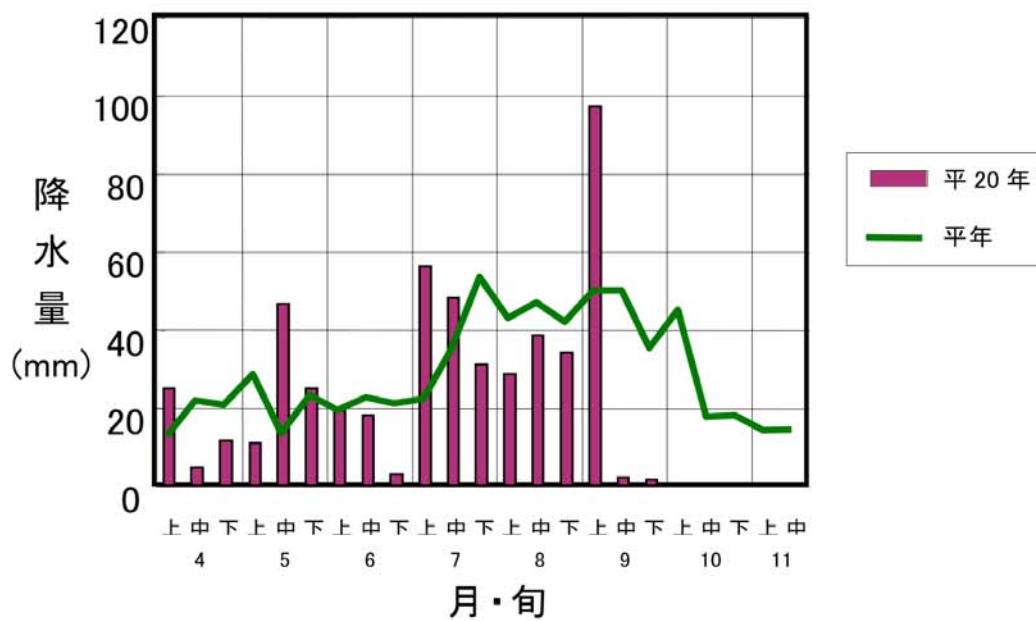
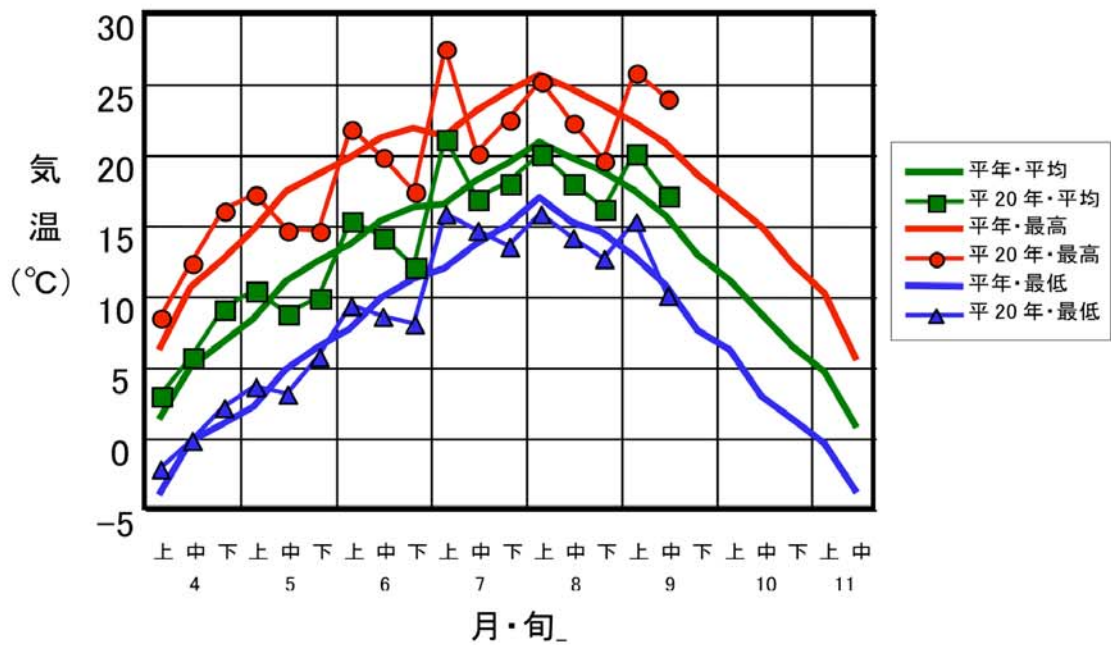
項目	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	16.1	18.7	△2.6	19.6	23.4	△3.8	12.6	14.4	△1.8
9月上旬	20.1	17.3	2.8	25.8	22.1	3.7	15.2	12.6	2.6
9月中旬	17.1	15.5	1.6	23.9	20.7	3.2	10.0	10.6	△0.6
平均	17.7	17.2	0.5	23.0	22.1	0.9	12.6	12.6	0.0

項目	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	34.0	41.2	△7.2	13.4	49.7	△36.3
9月上旬	97.0	49.4	47.6	65.3	42.7	22.6
9月中旬	2.0	49.3	△47.3	73.6	45.5	28.1
合計	133.0	139.9	△6.9	152.3	137.9	14.4

注1) 本年の観測値は、置戸町境野のアメダスデータ速報値である。

2) 平年値は前10か年間の平均である。

訂正：降水量グラフは、7月上旬の数値が4.5mmから56.0mmと大きく変更となったため訂正した。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作 況：良

事 由：千粒重、リットル重は平年をやや下回ったが、生育は旺盛で穂長、穂数が平年を上回っていたことから(7月報告)、子実重は多収となった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重 (kg/10a)	470	411	58	535	434	101
同上平年比 (%)	114	100	14	123	100	23
リットル重 (g)	800	815	△ 15	803	815	△ 12
千粒重 (g)	37.3	41.2	△ 3.9	40.1	42.2	△ 2.1

注) 平年値は前7か年中、「ハルユタカ」は平成15年(最凶)、18年(最豊)、「春よ恋」は平成14年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年平均。

2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：やや不良

事 由：9月20日の稈長は、平年並であった。本年は、6月中下旬ならびに7月中下旬の低温により抽糸期が遅れ、8月中下旬も低温で推移したことから、9月上中旬が高温で経過したにもかかわらず、登熟は平年よりやや遅れている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長 (cm) (9月20日)	260.0	265.3	△ 5.3

注) 平年値は前4か年の平均(供試品種を変更したため)。

3) 大豆

作 況：やや不良

事 由：8月下旬の平均気温が平年より極めて低かったため、不稔莢が多く発生した。そのため、「トヨコマチ」は前月より着莢数がかなり低下し、平年並となった。「ユキホマレ」は前月からの低下はみられないが、平年よりやや少ない。9月上旬以降の平均気温は平年よりかなり高く、登熟は進んでいるが、依然遅れ気味である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長 (cm) (9月20日)	67.9	60.7	7.2	69.8	59.7	10.1
主茎節数(節) (9月20日)	11.4	11.2	0.2	11.6	11.0	0.6
分枝数(本/株) (9月20日)	5.2	5.6	△ 0.4	4.5	5.0	△ 0.5
着莢数(莢/株) (9月20日)	62.2	63.2	△ 1.0	63.5	69.2	△ 5.7

注) 平年値は前7か年中、平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

4) 小豆

作 況：やや良

事 由：8月下旬の平均気温は平年より極めて低かったが、9月上旬以降の平均気温は平年よりかなり高かったため、着莢数は大きく回復し、「サホロショウズ」は平年よりやや多く、「エリモショウズ」はかなり多い。なお、「サホロショウズ」の成熟期の平年値は9月20日であるが、まだ達していない。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長 (cm) (9月20日)	67.2	57.9	9.3	64.5	67.1	△ 2.6
主茎節数(節) (9月20日)	12.9	11.7	1.2	14.0	13.8	0.2
分枝数(本/株) (9月20日)	3.6	4.2	△ 0.6	3.7	4.1	△ 0.4
着莢数(莢/株) (9月20日)	55.9	51.5	4.4	66.7	48.6	18.1

注) 平年値は前8か年中、平成15年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：やや不良

事由：8月下旬の平均気温が平年より極めて低かったため、成熟期は平年より9～10日遅かった。着莢数は両品種とも平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.13	9.4	9	9.18	9.8	10
草丈(cm) (成熟期)	48.0	41.1	6.9	53.7	43.0	10.7
主茎節数(節) (成熟期)	5.1	5.4	△ 0.3	5.1	5.7	△ 0.6
分枝数(本/株) (成熟期)	4.0	4.2	△ 0.2	3.9	4.0	△ 0.1
着莢数(莢/株) (成熟期)	18.3	20.2	△ 1.9	16.9	18.7	△ 1.8

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：やや不良

事由：「男爵薯」の枯凋期は平年より2日早い9月2日であった。「男爵薯」の上いも重は平年並であったが、7月中旬以降、土壌が湿潤であった影響から、でん粉価は平年を2ポイント下回った。「コナフブキ」は、この1ヵ月間順調に肥大したが、植え付けの遅れ等による肥大の遅れを挽回するには至らず、前報に引き続き上いも重およびでん粉価は平年を下回り、でん粉重は平年の85%と低かった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯凋期(月.日)	9.2	9.4	△ 2		10.5	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	-	-	-	4057	4417	△ 360
でん粉価(%) (9月20日)	-	-	-	21.3	23.0	△ 1.7
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	-	-	-	821	966	△ 145
上いも数(個/株) (収穫時)	9.3	8.8	0.5		9.5	
上いも1個重(g) (収穫時)	99	102	△ 3		113	
上いも重(kg/10a) (収穫時)	4057	4105	△ 48		4806	
同上平年比(%) (収穫時)	99	100	△ 1		100	
でん粉価(%) (収穫時)	14.1	16.1	△ 2.0		23.0	

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17(最豊)年、「コナフブキ」は平成15(最凶)、18(最豊)年を除く5か年の平均。

7) てんさい

作 況：やや不良

事 由：8月下旬の低温寡照で生育は大きく抑制された。9月上旬は気温、日照時間、降水量共に平年を上回り、茎葉の生長は促進されたものの、根部の肥大と根中糖分の蓄積は緩慢であり、平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	72.9	66.7	6.2	67.1	60.3	6.8	71.0	66.0	5.0
生葉数(枚) (9月20日)	27.8	31.2	△3.4	30.0	29.4	0.6	29.0	28.1	0.9
茎葉重 (g/個体) (9月20日)	1025	992	33	1179	972	207	1115	883	232
根重 (g/個体) (9月20日)	801	888	△87	985	919	66	716	740	△24
根周(cm) (9月20日)	31.8	33.4	△1.6	35.8	35.3	0.5	32.0	30.6	1.4
根中糖分(%) (9月20日)	14.42	14.97	△0.55	14.59	15.36	△0.77	14.48	14.73	△0.25

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成15年(最凶)及び17年(最豊)、移植「アーベント」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

8) 牧 草 (チモシー)

作 況：やや不良

事 由：1～2番草の合計乾物収量は平年比91%と低かった(8月報告)。9月20日の3番草再生時の草丈も平年並に留まった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	43	42	1
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	827	904	△77

注) 平年値は前6か年のうち平成19年(最凶年)を除いた前5か年の平均(耕種概要と調査項目を大幅に変更したため)。

9) たまねぎ

作 況：不良（参考）

事 由：「改良オホーツク1号」は平年より3日遅い9月5日に収穫した。平均一球重は平年並であったが、肌腐症球の激発(約30%)により総収量は平年対比で64%であった。さらに変形・分球の発生が多かったため、規格内率は平年より11%低く、規格内収量は平年対比で61%であった。「スーパー北もみじ」は9月5日に根切り処理を行い、平年より2日遅い9月16日に収穫した。規格内率は平年並であったものの、平均一球重は平年をやや下回り、総収量および規格内収量は平年対比で9%下回った。

なお、7月5日の暴風雨で冠水した作況試験区では半数以上の株が腐敗したため、収量調査は比較的被害の少なかった部分を調査対象としており、得られた成績については参考とする。

以上のことから、目下の作況は「不良（参考）」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.24	8.24	0	9.9	9.9	0
収穫期 (月.日)	9.5	9.2	3	9.16	9.14	2
総収量(kg/10a)	4630	7238	△ 2608	7176	8130	△ 954
規格内収量(kg/10a)	3740	6111	△ 2371	6202	6807	△ 605
同上平年比 (%)	61	100	△ 39	91	100	△ 9
規格内率 (%)	75	86	△ 11	86	83	3
平均一球重(g)	238	236	2	258	268	△ 10

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15～19年の5か年平均。